

平成18年度 第2次試験 【事例】

AAS解答例

第1問(配点30点)

(a)	強みは、親企業の資本力や営業拠点等の経営資源を活用し、自律性を保ちながらもシナジー効果が期待できる点、化学メーカーとして培ってきた技術やノウハウを持った優秀な人材をA社の経営に活用できる点、である。
	弱みは、親企業に対する売上高の依存度が小さくなく、A社の業績が親企業の業績によって左右されてしまう点、A社の業績に関らず、給与水準が親企業より多少低い水準を意識した設定とせざる得ない点、である。

第2問(配点30点)

(設問1)

海外事業拠点は、「情報収集の場」として発展的に活用することが考えられる。具体的には、取引先メーカーの技術動向、生産動向をいち早く察知し、コーディネート事業に必要な原材料のニーズなどを収集することである。

(設問2)

A社の事業展開の可能性は、コーディネーター事業の委託製造先として親企業を活用していくこと、親会社の営業拠点をA社の営業拠点として再編すること、組織体制を強化し、新規事業の拡大展開を図ること、である。

第3問(配点30点)

(設問1)

現在の組織には、地域別と製品別の機能で分かれた組織構造によるデメリットがある。具体的には、部門間の調整が煩雑になり、迅速な意思決定が行えない、拡大する海外取引に対する柔軟な顧客対応力を発揮できない。

(設問2)

A社が構築すべき組織は、現社長の在任期間を見直し、社長が描くビジョンを長期的に共有・推進できる組織体制、事業別に部門を再編し、取引先メーカーの動向や技術変化に即時対応できる柔軟な組織体制、である。
--

第4問(配点10点)

デメリットは、短期的雇用が前提となるため、新規事業や新製品へ対応できる能力などを長期的に育成できないこと、賃金などの雇用条件の見直しが前提となるため、再雇用者のモラル向上が図り難いこと、である。
